

家庭連合の旗を高く掲げ、天一国に向かって総進軍しよう！

韓国で「真の父母様招請 日本指導者特別集会」

10月3日から7日にかけて、韓国で「真の父母様招請 日本指導者特別集会」が行われ、日本から先輩家庭や牧会者、婦人代表、摂理団体の責任者ら約800人が参加しました。日本家庭連合の創立57周年に合わせて行われた今回の特別集会。日本の全責任者が、真の父母様を中心とする現在の摂理の動向を理解し、73億人類の救いのため深刻な立場で歩んでおられる真のお母様と心情一体化を成しながら、VISION2020の勝利に向けて子女として責任を果たしていく決意を新たにしました。

3日夕、清平の清心国際青少年修練院で行われた開会式では、世界宣教本部の趙誠一世界本部長が講話し、真の父母様が今回の特別集会のため特別な関心を持って精誠を尽くしてこられたことを説明。「真のお母様が推進しておられる摂理の内容、真の父母様の価値、全世界的な活動について、すべての食口たちと共有できるよう一生懸命勉強してください」と述べました。

続いて、金振春天法苑長が「真の父母様の位相と価値」と題して講話。また、トマス・ウォルシュUPF（天宙平和連合）世界会長が、真の父母様の願いを受けて世界各地で「平和国際国会議員連合」が創設されていることを報告しました。

4日は、天正宮博物館で日韓の指導者による報告が行われました。

「天の孝情の心情」をテーマに語った宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長は、VISION2020の勝利に向けた日本の戦略を発表。「(今回の集會を終えて)再び日本に向けて出発する時には、真の父母様の摂理的な代身者、み旨の相続者として勇敢な軍人のような威厳と天を突くような気迫を抱いて出発する必要があります」と力強く訴えました。

続いて、真のお母様が「会えてうれしいです」と切り出され、「人類文明史から見た天の摂理と今日の私たちの責任」という題目でみ言を語られ、「天の父母様、真の父母様を解放する孝子、孝女、忠臣、誇らしい天一国の勇士になってくれることをお祈りします」と激励されました。(3-4ページにみ言の抜粋)



午餐会では、リトルエンジェルスによる舞踊や、日本のCARP学舎長、トップガン卒業生、天正宮博物館公演チーム「アップル・ヘブン」の歌と踊りが会場を盛り上げました。

午後には柳慶錫・韓国家庭連合会長による韓国の活動報告、安豪烈統一財団本部長による言論報道の現況報告などがありました。

5日は、東海岸に近い江原道のパインリッジリゾートへ「孝情文化巡礼」を行った後、真のお母様を迎えて日韓和合特別集會が開催。この日、お母様は急ぎょ韓国全土から責任者650人を招集し、み言を語られるとともに、日韓ユンノリ大会を主管してくださいました。ユンノリ大会では徳野英治会長率いる日本のチームが優勝しました。

6日午前、2018年冬季オリンピックの会場となる江原道平昌郡の龍平リゾートで、「VISION2020勝

利のための韓・日天一国指導者和合統一出征式」が開催されました。

第1部の姉妹結縁式では、日韓両国の聖土を合わせてつくった日韓一体を象徴する聖土が、真のお母様によって両国の代表に下賜されました。続いて宋総会長、徳野会長、李成萬本部長をはじめ27人の地区長・教区長が、韓国の牧会者と結縁式を行いました。

第2部では、「韓日和合統一出征式」を挙行。始めに韓国のパクチョンホ教区長と日本の北谷真雄第10地区長がお母様に花束を贈呈し、次に韓国のオジェベク教区長と日本の堀守子WFWP会長が、中央に立たれたお母様の前で和合統一出征の決意文を読み上げ、参加者全体が大きな声で「決意します」と宣誓しました。

真のお母様は「韓国と日本は世界の父母として一

つになって勝利することを宿願します」とみ言を語られました。

午後からは、日韓対抗スポーツ大会が行われ、サッカーは韓国、バレーボールと綱引きは日本が優勝しました。

この日の夜、龍平の会場で「日本天一国指導者出征式」が行われました。その中で、徳野会長が「縦的な中心と一つとなって総進軍しよう」と題してメッセージ。また宋総会長は、真のお母様から今回頂いた恩恵の一つひとつ振り返りながら、「家庭連合の旗を高く掲げ、天一国に向かって総進軍しよう」と呼び掛けました。(5-6面にメッセージの要約)

最後に、牧会者、婦人代表、摂理団体の代表が「日本指導者和合統一出征決意文」を読み上げ、VISION2020の勝利に向かって全体で新たに出発しました。

神様の夢を叶える天一国の勇士となれ！

10月3日から7日にかけて、韓国で「真の父母様招請 日本指導者特別集会」が行われ、全国から牧会者や婦人代表など約800人が参加しました。以下のみ言は4日、天正宮博物館で真のお母様が日本の責任者に語られた内容を翻訳し、一部を抜粋・整理したものです。



会えてうれしいです。この場に呼ばれて、うれしいですか。きょう、私が話そうと思うのは、「人類文明史から見た天の摂理と今日の私たちの責任」という内容です。

太初、神様には夢がありました。人間と共に、創造のみ業の中で永遠に、愛と幸福を分かち合いながら生きたいというのが、(天の)父母様の夢でした。その全知全能で、絶対的な力をもたれたお方が、なぜアダムとエバの墮落を前もって防げなかったのでしょうか。それは、大きな祝福を与えられたにもかかわらず、人間が責任を果たせなかったからです。自己中心的な考えと行動が、墮落によって天の父母様と関係のないサタン^{キムン}の血統を生み出しました。そうしてできたのが、今日の人類世界です。

しかし、天はそのままあきらめることができませんでした。人間の世界において、御自分のみ旨に従うことのできる中心者を4000年間、探し求めながら、イスラエルという選民を立て、育ててきたのです。1、2カ月ではなく、4000年という長い年月がかかったのは、なぜでしょうか。墮落した人間が天のみ前に進み出るためには、蕩滅を経なければなりません。数多くの中心人物が立てられましたが、蕩滅の峠を越えることができなかった結果、失敗が繰り返されてきたのです。そうして、4000年という長い年月を経て、彼らに送ることを約束したメシヤを、送っていただきました。

当時、イスラエルにはまだ国ができていませんでしたが、カイン側のサタン世界には、ローマ帝国という巨大な国がありました。その国は、「全ての道はローマに通じる」と言われていました。天は、求めてきた一つの中心を探し立て、その民族と国を通して、巨大なローマ帝国を通して、世界を抱こうとされたのです。

しかし、何も知らない当時のイスラエル民族、ユダヤ教、特にイエス様を誕生させたマリヤが、責任を果たせ

ませんでした。イエス様が一人でいらっしゃるのに、マリヤが結婚生活などできますか。今日まで、キリスト教は間違っ理解してきたのです。今や真実を明らかにして、すべてのものを本来の立場に戻さなければなりません。

当時、イエス様はマリヤに、3回以上、御自分が結婚しなければならないことを話しました。私は知っています。しかし、マリヤは結果的に、イエス様の環境圏をつくってさしあげることができず、その責任も果たせませんでした。結果として、イエス様を十字架につけた張本人になったのです。このことを知らなければなりません。



天は、4000年かけてイスラエル民族を育ててこられたように、独り娘を出現させるために、韓民族、この国を育ててこられました。韓国(韓半島)にキリスト教が入ってきたのは、それほど昔のことではありません。当時、平壤を中心として、神靈的な復興が起きました。蘇生^{キムン}的な基盤は、金聖道の聖主教団、新しい主を信じるグループです。この教団は、サタンが騙して結婚をした立場にありましたが、結果的に、夫の立場であったサタンを屈服させました。そうして、来られる再臨のメシヤを迎えるための準備を、蘇生^{キムン}的にしたのです。

次は、長成(的基盤)の許浩彬(孝彬)の集団です。この団体は、再臨のメシヤを迎えるための準備をすべてしました。実際に、イエス様の恨を解いてさしあげる役割も果たしました。こうして、再臨のメシヤを迎えるための準備をし、独り娘を準備したのです。

このような中、蘇生・長成・完成段階において、大母様を中心として天の祝福を受け、1943年に独り娘である私が生まれました。(拍手)サタンとは関係のない、過去、イエス様の時と同じように、天が直接探し出された、独り娘の誕生でした。

当時は、解放とともに南北が民主と共産に分かれ、北を中心として本格的に共産化が始まる時で、許浩彬も監獄に行きました。その時、私は6歳でしたが、許孝彬の母親が、代わりに(団体の)責任を担っていました。その母親が私を呼び、「主の花嫁」と言ったのです。



お父様は16歳(数え)の時、イエス様から使命を受けました。アダムとエバにも成長過程がありました。お父様も、責任を引き受けた立場において、果たすべき責任があります。イエス様の恨(を解き)、再臨のメシヤとして出発するに当たって、蕩滅を経ざるを得ませんでした。

そのような中、結局、北で監獄に行くことになるでしょう。しかし、天は、監獄でそのまま終わらせるわけにはいきません。既に独り娘は誕生しているのですから、お父様を守らなければなりません。こうして、お父様は国連軍によって(解放され、)南下することになります。

お父様は釜山で、独り子として、み言を完成させなければなりません。それが、独り子としての責任です。(お父様は)それを果たされました。さらに、信徒を探し求めなければなりません。その基盤の上で、1960年、独り娘に出会い、真の父母の位置に進まれたのです。(拍手)

私は、摂理歴史の真実を明らかにしなければならぬと言いました。天の父母様による2000年のキリスト教歴史は、独り娘を探し求めてきた摂理歴史です。

聖書にも、はっきりとあります。「人の子に対して言い逆らう者は、ゆるされるであろう。しかし、聖霊に対して言い逆らう者は、この世でも、きたるべき世でも、ゆるされることはない」と。最後だからです。天の父母様の摂理の中で、最後に探し出すべき独り娘だからです。そうして、この独り娘によって、新しい摂理歴史が出発しているのです。(拍手)



摂理の中で、真の父母様が生まれたこの民族が、天のみ前に責任を果たさなければなりません。なぜ韓民族を選んだのかを、この民族が知らなければなりません。それはつまり、この国が神様の祖国、真の父母の国になるべきだということです。そのような基盤を築くべき責任を担った人たちが、祝福家庭です。

私が地上にいる間に、天のみ旨を必ず成し遂げてさしあげなければなりません。必ずやこの国が、真の父母様



の国となり、世の中に対して、73億の人類に対して、手本にならなければなりません。それに当たって、人類文明史的に見ても、島国の役割が大きいのです。お父様は日本に対して、「エバ国家の使命を果たしなさい」と祝福してくださいました。そうですか。「(はい)」その祝福には、責任が伴います。その責任を果たしてこそ、完全な祝福があることを、皆さんが深刻に理解して、実を結ばなければなりません。



私にはすべきことが、途方もなく多くあるのです。皆さん!私ができることを、手伝ってくださいか。「(はい)」(拍手)皆さんがいるので、私は力が湧きます。

様々な面で、私がいる間に、天の父母様が「ありがとう。あなたたちが真のお母様と一つになって、私の夢をかなえてくれたんだね」と言われるように、これ以上延ばせない緊迫した現実と直面していることを、皆さんは切実に感じなければなりません。「(はい)」(拍手)

摂理を前にしたとき、明日というのはあり得ません。きょう、勝利しなければなりません。分かりましたか。「(はい)」そのような切迫した心情で、天の父母様、真の父母様を解放する孝子、孝女、忠臣、誇らしい天一国の勇士になってくれることを、お祈りします。「(アーチュ!)」(拍手)



①日本からの贈り物を受け取られた真のお母様
②リトルエンジェルス^{キムン}の少女からハグされる真のお母様

神様と真の父母様を堂々と証しする天の精兵となろう！

宋龍天総会長のメッセージ

以下のメッセージは、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長が10月6日、韓国・龍平で行われた「日本天一国指導者出征式」で語った内容を翻訳し、整理したものです。



まず、真のお父様のみ言と真のお母様のみ言を訓読いたします。訓読する真のお父様のみ言は、8大教材教本に含まれているみ言で『平和の主人、血統の主人』に記録されており、天一国経典『平和経』1617ページに掲載されているみ言です。

「時代が変わりますが、皆さんが住んでいる生活環境は変わりません。私たちは昼と夜が分かれる正確な点を知らないのと同様に、春と夏が1秒間に変わることを知りません。12時前と12時後の1秒を中心としても知らないのです。昨日と今日が、同じような日のように続きますが、新しい日、新しい時代、新しい世界へと転換されるです。アーチュ！」

そして、次に真のお母様が去る10月4日天正宮博物館で、私たち日本の指導者800人を前に語られたものです。

「私がいる間に天の父母様が『ありがとう。君たちが真のお母様と一つになって私の夢をかなえてくれたのだな』という、このようにもう先送りできない緊迫したこのような現実に直面していることを、皆さんは切実に感じなければなりません。この摂理の仕事は置いては、明日がありません。今日の時点で勝利しなければなりません。このような切迫した心情で天の父母様、真の父母様を解放する孝子、孝女、忠臣、誇らしい天一国の勇士たちとなることを祈ります。アーチュ！」

* * *

私は、今回のすべての日程を通して一つのことを胸深

く感じました。それはまさに「真のお母様は摂理に向かって切実に切迫して勝利を念願しておられる」ということでした。先ほど訓読させていただいた真のお父様のみ言は、「季節が変わる瞬間を私たちが知らないように、摂理の流れと摂理的転換の瞬間を私たちが知らない」ということです。そのため、常に目を覚まして祈らなければなりませんということなのです。

そして、すべての指導者が直接聞いた真のお母様のみ言は、「今、神様の夢と真の父母様の夢、そして人類の理想を完成するための摂理のときを、もはや遅らせることができない緊迫した現実に直面している」ということです。このみ言を見ると、私たちは今何が起きているのかをまだ正確に知らずにいることが分かります。私たちは、今回参加した出征式の前と出征式を終えた後の違いを正確に知らずにいるということです。しかし、今この時間を通して摂理の時が来たことを、今すべての祝福家庭が総動員、出征する時間となったことを明らかに認識する必要があります。

* * *

いま出征した私たちが持つべき具体的な目標が必要です。日本、母の国が自発的に定めた具体的な勝利の目標は、「青年2000人祝福勝利と1万人のお休み食口の再復帰」がその基準です。あわせて、新規伝道も年間目標を必ず達成する必要があります。この目標や、既に後半3年半路程出発とともに、数度にわたって申し上げた年間目標を達成することです。この目標を達成するために、



①「日本天一国指導者出征式」に臨んだ日本の責任者たち(10月6日) ②「出征式」で日本の責任者たちを鼓舞する宋総会長(同) ③盛り上がるユンノリ大会(5日、龍平リゾート)

すべての教会は、全食口総動員の基準を立てなければなりません。

ここに加えて、最初に1200認定家庭教会を定着させていかなければなりません。これは神氏族メシヤの活動の結実とならなければならず、家庭連合の様々な家庭教会を通じた外的成長の結果となるでしょう。このすべてのことをなす絶対的な方法は、私たち自身の改革と革新を通じた心の成長が、その根になります。

今回の天地人真の父母様の主管された韓日天一国指導者と合統一出征式は、単純な出征式ではなく、救国救世基盤造成に向けた出征式であり、その席は天の父母様が見つめられ、真の父母様が主管される出征式でした。つまり、天上の真のお父様もまた、絶対善霊を総動員して地上の私たち祝福家庭を協働されるということです。どれほど深刻な席ですか？

そのため、10月12日からは食口の再復帰のために、担当する食口は休んでいる食口のために3回にわたって40日ずつ精誠を捧げ、絶対善霊からその家庭の位置を教わり、具体的に協助することができるよう毎日訓読し祈らなければなりません。そうすれば、休んでいる食口の前祖たちも黙っておられず、必ずその子孫を再びみ旨の中に導いて来るようになります。

各教会では、帰ってきた食口がかつて去ったときに受けた心の傷を涙で洗い流し、平安な心でその家庭の基準と現実に合わせて、家庭連合の信仰を新しく出発できるように導いていかなければなりません。これが正に心情文化共同体です。

* * *

ゴリアテの前に立ったダビデ、そして100万のペルシヤの大軍の前に立った300人のスパルタの兵士たちの共通点は何だったのでしょか？ それは他でもない、民族と国家を守ろうとする「滅私奉公」の心で、強く大胆な精神武装をしたということです。

今、私たちは真の父母様から「総動員、総進軍せよ！」

と語られる天命を受けて出征を完了しました。私たちに今必要なのは、まさに摂理のときを知って陣頭指揮しておられる真の父母様と完全に一つになって、強く大胆な心で勝利への第一歩を踏み出していく器なのです。

家庭連合の旗を高く掲げて、生きて働かれる神様と勝利された真の父母様を堂々と証し、120日の路程を1次の勝利の跳躍台にして、2020年に母の国の天一国の実体的な基盤を天の前に奉獻する、天一国の勝利に向けて前進しましょう！

今、私たちはもはやためらう時間もなく、準備する時間ありません。すでに総進軍のラッパは鳴り、到着しなければならない目的地は決まり、進軍すべき方向性も提示しました。

これまでのすべての習慣性と墮落性、不平不満や後悔する心をここに置いて、新しい気持ちで勝利に向かって出発しましょう。常に祈りの気持ちで、天の父母様と真の父母様の視点、真の父母様の目に自らの姿と基元節4周年までの目標と活動内容を確認し、真の父母様の心情で相互に疎通し、真の父母様の切迫した心情で1日1日を生きていきましょう。そして孝情の伝統を相続してくださった真の父母様の前に真の孝子の基準を立てましょう！

私と共に家庭連合の旗を高く掲げ、死生決断、全力投球、実践躬行の覚悟で、天一国に向けて総進軍していきましょう！皆さん！心から愛し、感謝しています。最後に、4泊5日の期間を通して無限の天の祝福と恩寵、そして天の父母様に対する孝情の伝統を相続され、私たち日本の母の国を摂理の第一線に立ててください、総進軍の出征を導いてくださった天の父母様と天地人真の父母様に、感謝と尊貴と栄光を捧げ、すべてのみ言を終わります。

日本のすべての祝福家庭食口の皆さん！本当に本当に、心から愛しています。ありがとうございます。

“夢を夢で終わらせてはならない、必ず成し遂げられる”

宋龍天総会長ご夫妻、高岡家庭教会で特別集会



①特別集会に集まった食口たち
②メッセージを語る宋総会長
③李海玉総会長夫人を中心に記念撮影

9月26日、富山教区高岡家庭教会で、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長ご夫妻を迎えて「特別集会」が開催され、約120人の食口が集まりました。

午前10時、宋総会長ご夫妻は高岡家庭教会に到着するや否や、一人ひとりと握手をしながら、家庭ごとに記念撮影。和やかな雰囲気の中で集会が始まりました。

集会では、最初に李海玉総会長夫人が心情的なメッセージを語りました。

「高岡家庭教会の建物が質素なのは、天の祝福の原則を知る皆さんが、愛との犠牲の精神で限りなく世界の為にご貢献してきたからです。この建物は、天が感動されるべき建物です。お父様がこの場にいらっしゃるならば『お前たち本当に良くやった。ご苦労だった。私はお前たちがどれくらい苦労したのか良く知っているよ』と教えてください。皆さんの精誠と愛に対し、天の父母様と真の父母様は誇らしく思われ、皆さんの先祖もありがたく思われています」

食口たちのこれまでの精誠と苦労を慰労する内容に、参加者の目には涙が溢れました。

一方、宋総会長は「真のお母様は『日本に帰ったならば、全国の教会を回りながら、すべての食口たちに会いなさい！本当に食口たちは貴いのです。食口たちは、私の子女である！』というみ言を私に下さいました。そのようなお母様のみ言に従って、聖和4周年までに全国の教会を巡回しました」と説明した上で、次のように語りました。

「先回、高岡家庭教会を巡回したとき、『ソウル・青坡洞の日本部教会のようだ』という印象を持ちました。真の父母様を愛し慕いながら、すべてを犠牲にしても貢献しようとする食口たちの姿に、教会草創期の雰囲気を感じたのです。

それと同時に、お父様がヨーロッパにいらっしゃったとき、『日本に私が行かないといけない。日本の食口たちに早く会いたい』と願われ、徹夜で精誠を捧げておられたことを想起しながら、お父様が日本に訪問されたならば『高岡家庭教会を訪ねていきたい！』と言われたのではないかと思います。先回は短時間しか滞在できなかったもので、いつも『高岡家庭教会にもう一度訪問したい！』と思っていましたが、きょうその夢が成就しました」

宋総会長は、神氏族メシヤと救国救世基盤の勝利を呼び掛けた後、真のお父様がご自身のネクタイを外して宋総会長に伝授されながら、「夢は夢で終わらせてはいけません。夢は必ず成し遂げなければならない」と語られたエピソードを紹介。その上で、宋総会長は自らのネクタイを外してプレゼントしながら、「天の父母様の夢、真の父母様の夢を夢で終わらせてはいけません。夢は必ず成し遂げられるのです」と訴えました。

参加者からは「食口を心から愛して下さる姿を通して、背後におられる真の父母様のお姿を感じました。私たちも、このような姿で、このように愛して、神氏族メシヤに向かいなさいと教えて下さったように思いました」（N・Kさん）といった感想が聞かれました。

“青年の心で、家庭連合時代の新しい環境創造の主体となれ”

千葉で「定年退職事前説明および神氏族メシヤ出発激励会」



①神氏族メシヤの勝利を決意して出発する参加者
②宋龍会長
③徳野会長
④神氏族メシヤ活動に関する質疑応答も行われた

9月29日、千葉・浦安の一心特別教育院で「定年退職事前説明および神氏族メシヤ出発激励会」が開催され、長年にわたり家庭連合の発展に寄与してきた全国の公職者約80人が参加しました。

午前のプログラムでは、李成萬本部長が開会の挨拶を行い、参加者に向けてこれまでの多大な貢献に対する感謝の言葉を述べた上で、定年退職制度の背景・趣旨について説明。その後、矢野治佳伝道教育局長から「本部認定神氏族メシヤ家庭教会制度」に関する方針が発表されました。

続いて登壇した徳野英治会長は、①神氏族メシヤ活動を必ず勝利する②リーダーは後継者を3人以上必ず立て、経験を後進に伝える③今から退職を迎えるまでに神氏族メシヤ出発のための準備をする——という3点を強調しました。

メインスピーチで宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長は、「65歳という年齢は、真のお父様がダンベリーーの試練を乗り越えられた年齢であり、御旨の道に引退はあり

ません」と強調。「夢や情熱、挑戦する心や希望を持ち続けるならば、それこそが真の青年です。これからますます青年の心を持ち、真の愛を实践し、家庭連合時代の新しい環境創造の主体となってください」と切々と訴えました。

さらに、宋総会長は「本部認定神氏族メシヤ家庭教会制度が創設されたのは、神氏族メシヤを勝利させたいという天からの祝福です」と指摘。「神氏族メシヤの勝利に向けて、私自身の中にまず天一国を作り、次に家庭の中に、氏族の中に天一国を築き、勇気をもって召命的責任を果たし、2020年までに救国救世を必ず成す覚悟と決意を持ってください」と呼び掛けました。

午後のプログラムでは、神氏族メシヤ活動に積極的に取り組んでいる3人の証しの後、人事部が退職後の生活に対するフォローアップ講座を行いました。

参加者の多くが神氏族メシヤの使命に対する深い自覚と決意をもって新しく出発する場となりました。

牧会者として生涯を全うした崔炳泰宣教師

奈良で「教区聖和式」 挙行



①熊谷地区長の説教を聴く参列者
②感謝の言葉を述べる宮下典子夫人
③祝福を行う熊谷地区長（中央）
④出棺を見守る大勢の食口たち

9月29日、奈良教区奈良家庭教会（奈良市）で、崔炳泰宣教師の「教区聖和式」が行われ、全国の牧会者や共にみ旨を歩んだ食口など250人以上が参列しました。

崔宣教師は1998年4月、韓国から180人の宣教師の一人として来日。東大阪教域長を皮切りに、大阪、愛媛、兵庫、京都、奈良で一貫して牧会者として歩む中、9月26日午後3時51分、病気のため聖和しました。享年48歳でした。祝福は36万双で、宮下典子夫人との間に2男1女に恵まれました。

聖和式では、聖歌讃美、略歴紹介、映像上映の後、植村スミ子奈良教区婦人代表が代表報告祈禱しました。

次に、徳野英治会長の「メッセージ」を方相逸復興局長が代読し、「日本の全祝福家庭を代表し、真の父母様の代身として宋龍天（全国祝福家庭総連合会）総会長ご夫妻が（聖和から3時間後の）夜7時に病院に駆け付け、崔宣教師と家族の為に精誠を込めた熱い祈禱を捧げて下さったことは、感謝以外の何物でもありません」と語りました。

続いて、宋龍天総会長の「天地人真の父母様への書信」を崔宣教師の親友である鄭泰爽補佐官が代読。「崔牧師が食口達と一緒にいる姿を見るたびに、あまりに

も食口達が教会長をよく慕い、皆が幸福な姿であるのを見て、『ああ、崔牧師は食口を本当にたくさん愛する牧会者だな』といつも感じていました」と証しました。また、鄭補佐官が闘病中の崔宣教師から「3つの願い」を託されたエピソードを披露し、二人の友情の深さに会場は感動の涙に包まれました。

引き続き、主礼の熊谷栄佐雄第15地区長は説教の中で、崔宣教師が牧会者として生涯を捧げるため亡骸を日本に埋葬してほしいと言い残して逝ったことを紹介しながら、「崔宣教師は韓日一体化の道を完全に開きました。新しい時代にふさわしい宣教師でした」と称えました。

友人の心のこもった語りかけに続き、長男の崔孝栄さんが送辞で、「（心置きなく霊界に旅立するように）父を笑顔で見送ってあげてください」と述べました。

献花・焼香の後、施主の宮下典子夫人が、揮毫を送って下さった真の父母様をはじめ、支えてくれたすべての人々に感謝の言葉を述べました。

全体で「統一の歌」を歌い、主礼の熊谷地区長の祈禱を行った後、滝口利浩奈良教区長の億万歳三唱をもって聖和式は無事に終わりました。

躍動する日本の国づくりのビジョンを提示

徳野会長が「救国救世北海道大会」で講演

10月8日、札幌市内のホールで「救国救世北海道大会」が開催され、各界で活躍する指導者や新規の参加者を含め多くの人々が集まり、会場の650席が満員となる大盛況となりました。

式前公演では、女性グループ「シグナル」が1曲、聖歌隊「ノース・ヒル・クワイア」が2曲を披露し、美しい歌声で会場の雰囲気を整えました。

大会は、司会の矢吹恭一・北海道平和大使協議会事務局長の開会宣言の後、安田公保共同議長が主催者挨拶。

次に、徳野英治・平和大使協議会会長が、このたび退任する北海道平和大使協議会の谷口博議長（北海道大学名誉教授）に感謝牌を授与。引き続き、新議長に委嘱状

が授与され、新旧の交代式がありました。

来賓挨拶と祝電披露に続き、盛大な拍手に迎えられて徳野会長が登壇、記念講演を行いました。

徳野会長は、少子高齢化・人口減少問題や家庭の愛情機能崩壊、伝統的結婚の危機、東アジアの安全保障問題など、現在の日本が抱える様々な問題を指摘。その上で、日韓トンネルを中心とする環日本海経済圏構想など、それらの問題を克服し、躍動する日本の国づくり、世界平和実現に貢献する希望ある日本の未来を築く夢とビジョンを力強く提示しました。

大会は最後に、地元議員のリードで万歳三唱を行って閉会。新しい北海道平和大使協議会の門出となりました。



①記念講演をする徳野会長
②会場一杯に集まった参加者
③美しい合唱を披露した聖歌隊

【参加者の感想】

■世界平和に対する情熱に圧倒

今回初めて大会に参加させて頂きました。熱気溢れる満席の会場内、万雷の拍手のもと始まる大会は圧巻でした。徳野会長のご講演はすさまじく、世界平和に対する揺るぎない情熱には、ただただ圧倒されてばかりです。私も本日たった今から努力精進を始めなければと思いました。家族に感謝！そして本日この素晴らしい大会に参加する機会を頂いた事に感謝します！（北海道議会議員秘書）

■日本の危機克服に向けて備えを

現代日本が抱える危機について分かりやすく解説していただき、いかに克服し日本の未来に備えていかなければならないかを再認識する場となりました。地方自治体でも同じ問題を抱えており、特に家庭づくりについてさらに勉強を深めていきたいと思っております。（岩見沢市議会議員）

北海道・帯広で「家庭連合慰霊塔広場出帆記念式」

10月9日、北海道・帯広の「聖火の郷」慰霊塔広場で「世界平和統一家庭連合慰霊塔広場出帆記念式」が行われ、約1200人が集まりました。慰霊塔広場は、8月末に襲来した台風10号により大きな被害を受けましたが、地元・帯広家庭教会の食口をはじめ北海道全体の食口の協力により、無事にこの日の式典を迎えました。

安田公保第1地区長の主催者挨拶、浅川勇男先生による経過報告に続き、徳野英治会長がメッセージを語りました。

徳野会長は、神氏族メシヤ活動で家庭連合の教えについて語るポイントとして、①“為に生きる”実践②救いの基本は家庭③宗教和合を推進④愛国心と国際主義を重視⑤宗教をなくすことが目標——の5点を挙げて解説。最後に「傲慢になったら、そこにサタンが入ります。常に天の前に感謝する生活を送る神氏族メシヤとなってください」と語りました。

続いて、牧会者12人がそれぞれ、食口たちの精

誠が込められた祈願書を奉献し、徳野会長が祝祷を行いました。

式典後半は、天父報恩鼓の演舞や聖歌隊の讃美などが行われ、億万歳四唱と全体記念撮影で式典は終了しました。



福島家庭教会が「宇宙既成祝福式」

10月2日、晴れ渡る素晴らしい天候のもと、福島市内のホテルで「2017天地人真の父母宇宙既成祝福式」が行われ、既成祝福25組、独身祝福15人の合計40組が参加しました。

既成祝福25組のうち17組が、新規あるいは学び始めて数カ月のカップル。また20年近く夫復帰のため尽力してきた婦人食口7人が今回、夫と共に祝福を受けることが

できました。

参加したカップルは祝福を心から喜び、和やかで非常に良い雰囲気の中で祝福式は幕を閉じました。



東東京・東広島教区で「壮年研修会」

10月2日、東東京、東広島両教区で「壮年研修会」が行われました。

東京・江戸川で開催された東東京教区の研修会には教区内の壮年80人が参加。矢野治佳伝道教育局長を講師に迎え、「天一国定着に向けた私たちの姿勢」と「天一国定着のための祝福中心家庭の生活」をテーマに、講義とフリーディスカッションを行いました。

尾道市で行われた東広島教区の研修会には壮年67人が参加し、午前は光永一也教区伝道

教育部長による「救国救世」の講義と、7つのテーマによるグループディスカッションを実施。午後は、可知雅之巡回師が、「人類一家族世界はいかにして創建されるか」と題して講演し、参加者は感動の中に深い決意をして出発しました。



埼玉で第8回ピースカップジュニアU-10大会

10月2日、埼玉県加須市内のスポーツ施設で、「第8回ピースカップジュニアU-10大会」が開催され、4年生以下の男子と6年生以下の女子が参加する「U-10」部門やエキシビジョンマッチなどが行なわれました。会場には、U-10の参加者約120人とエキシビジョンマッチの参加者（小5・6年生から大人まで）約100人のほか、応援や引率の父母・スタッフ80人を合わせ、合計およそ300人が集いました。

U-10には11チームが参加し、リーグ戦と上位チームによる決勝トーナメントを実施。決勝戦では、「松本M-STF」が宇都宮・練馬合同チームを下し、2年

連続で優勝しました。

エキシビジョンマッチには、昨年以上に多くの選手が参加し、互いに熱心に応援する姿が見られました。そのほか、リフティング大会や女子チーム同士の対戦、ピースサッカークラブを代表して韓国の大会に参加する選抜チームの強化試合も行なわれました。

会場の準備から最後のグラウンド整備まで、選手と家族が一つになって積極的に参加。家庭連合創設57周年の記念の日に、家庭連合時代にふさわしく、サッカーを通して神様の下の大家族を築いていくことを印象付ける大会となりました。



当法人信者の信仰の自由を侵害、佐賀大准教授が6カ月の停職処分

当法人の信者である佐賀大学の元女子学生AさんとAさんの両親の信仰を侮辱するなどした同大学の男性准教授（58）が、停職6カ月の懲戒処分となりました。処分は9月23日付で、同大学が10月3日に発表しました。

准教授は2012年2月、当時ゼミ生であったAさんを研究室に呼んで、Aさんの信仰を侮辱する発言を繰り返し、当法人やAさんが加入していたCARP（原理研究会）からの脱会を執拗に迫るなどしました。またAさんの両親の信仰について、家庭連合（当時統一教会）の合同結婚式は「犬猫の結婚」であり、Aさんの家族の生活は「犬猫の暮らし」などと到底教育者とは思えない侮辱発言をしました。

これを受け、Aさんと両親は12年5月、信仰の自由を侵害され、名誉感情を侵害されたとして、准教授と佐賀大学に対して損害賠償を求める訴えを佐賀地裁に起こしました。

これに対して佐賀地裁は14年4月、福岡高裁は15年4月、それぞれ「信仰の自由を侵害する」不法行為があったとして、同大学に対して損害賠償を命じる判決を下しました。今年1月には、最高裁がAさん側の上告を棄却したことで、准教授による不法行為を認定し、同大学に損害賠償を命じた判決が確定しました。